

PMR 資格試験への挑戦 4

自身の振り返りと気づきの機会としての PMR 資格試験

日本ユニシス株式会社 組織開発部 部長
藤曲 亜樹子

■ 受験動機

システムエンジニアとして 20 年以上プロジェクトマネジメント、プログラムマネジメントを実践してきました。PMS を取得してから 10 年が経っており、自身のプログラムマネジメントに対する実践を振り返るために挑戦しました。

■ 受験の感想

まず、率直な感想として、単なる資格取得ではなく、試験のための準備、試験そのものが大変学びになりました。

PMR は P2M の実践力を認定する資格ですが、学びは受験申込から始まります。受験申込では、「プログラム・プロジェクトマネジメント実務経歴書」を作成します。この経歴書は、単に過去の実務を記載するだけではなく、プログラムのモデルや創造した価値創造の観点でどのような成果を生み出したか、リーダーシップの発揮などについて記載します。さらに、一次面談で自身のプログラムマネジメントの実践について言語化し語ることで、自身を客観的に振り返ることができ、自分の姿勢や強み・弱みにあらためて気づく機会になりました。

また、一次試験では、P2M における実践力の能力要素と評価基準（10 のタクソノミー）にしたがい、実践力を評価する小論文試験があります。小論文試験では、短時間の中で、テーマとなるプログラムの背景や価値の本質を考え、構造化してモノを捉え、自身の倫理観・姿勢を盛り込む必要があります。

二次試験では、一人ひとりが論述をした上で、グループでのワークショップ形式での試験があります。この試験での難しさは、初めて知り合った方々と短時間で「プログラムチーム」の体制をつくり、「プログラムチーム」としての対応を求められます。一人ひとり異なる背景、価値観、考えをいかに受容し、一人では創り出すことのできない価値をどう創出するのか。大変難易度の高い試験でしたが、多様な人財で価値を創出することへの気づきがあった試験でした。

■ PMR としての展望

現在は、コーポレートスタッフとして、グループの風土改革を推進するミッションをもっています。PMR の試験を通じてあらためて体系的に学んだタクソノミーと自身の強み・弱みを意識し、VUCA の環境でゼロベースで思考し価値を創出し続けることのできるリーダーとして実践力を磨いていきたいと思っています。

今回、このような機会を通じて気づきを与えてくださった PMAJ 関連の方々に厚く御礼申し上げます。



【プロフィール】 藤曲 亜樹子（ふじかね あきこ）

日本ユニシス株式会社 組織開発部 部長

2006 年 PMS 試験合格、2020 年 PMR 合格。

金融関連の IT システムのプログラムマネジメントに従事し、現在はグループデザイン部門の責任者として

人財開発、組織開発、働き方改革、ダイバーシティ・インクルージョンを推進。